

1. 評価報告概要表

全体を通して(※このホームの優れている点、独自に工夫している点など)	
自然に恵まれ、海山の景観や季節の移り変わりを身近で楽しめる立地にあった。入居者の方々のための交流や職員のケア向上のための研鑽など、系列の病院や福祉施設との連携を、最大限活かした取り組みをされていた。「利用者の立場に立ち、思いやりを持って、尊厳と安らぎのある生活を」という理念のもと、和気あいあいとした雰囲気の暮らしが提供されていた。ゆとりあるフロアは、車椅子でも移動し易く、安全面や衛生面にも配慮が行き届いていて、安心して過ごせる環境が整備されていた。	
分野	特記事項(※優先順位の高い要改善点について)
I	要改善点特になし。(現状の維持、そして更なる充実が期待される)
運営理念	
II	要改善点特になし。(現状の維持、そして更なる充実が期待される)
生活空間づくり	
III	介助が必要な方もおられ、職員は同じテーブルでさりげないサポートを行ないながら、楽しそうに会話を交え食事をされていたが、御弁当を持参しており、同じ食事を摂られていなかった。入居者の方も御弁当に違和感を持たれておられないが、同じ食事を味わうことにより、職員の調理レベルの向上も期待できるので、今後の検討を望みたい。
ケアサービス	
IV	要改善点特になし。(現状の維持、そして更なる充実が期待される)
運営体制	

分野・領域		項目数	「できている」項目数
			外部評価
I 運営理念			
①	運営理念	4項目	4
II 生活空間づくり			
②	家庭的な生活環境づくり	4項目	4
③	心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	6
III ケアサービス			
④	ケアマネジメント	7項目	7
⑤	介護の基本の実行	8項目	8
⑥	日常生活行為の支援	10項目	9
⑦	生活支援	2項目	2
⑧	医療・健康支援	9項目	9
⑨	地域生活	1項目	1
⑩	家族との交流支援	1項目	1
IV 運営体制			
⑪	内部の運営体制	10項目	10
⑫	情報・相談・苦情	2項目	2
⑬	ホームと家族との交流	3項目	3
⑭	ホームと地域との交流	4項目	4

2. 評価報告書

項目番号		項 目	でき て い る	要 改 善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外 部	自 己						
		I 運営理念 1. 運営理念の明確化					
1	1	○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム（以下「グループホーム」という。）に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム（以下「ホーム」という。）の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			「利用者の立場に立ち、思いやりを持って、尊厳と安らぎのある生活を」という理念を、職員は話すことができ、理解されていた。	
2	3	○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、入居者及びその家族等に分かりやすく説明している。	○			ホームの運営理念を見やすく掲示し、入居時には本人や家族に詳しく説明されていた。玄関にある案内ファイルにも明示されていた。	
3	4	○権利・義務の明示 利用者の権利・義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、入居者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			利用案内時の契約文書の他、パンフレットでも説明が行われ、同意も得られていた。	
		2. 運営理念の啓発					
4	5	○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発・広報に取り組んでいる。（ホームの説明会、ホーム便り等）	○			写真を取り入れた見やすいホーム便りを作成し、運営推進会議などの中でも業務内容の説明を行い、理解してもらうように努められていた。	
運営理念 4項目中 計			4	0	0		
		II 生活空間づくり 1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、入居者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。（玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等）	○			ガラス張りの玄関は明るく、中の様子がよく分かり、飾りの花や腰を下ろせる椅子等も配置されていて、入り易い雰囲気がつくられていた。	
6	7	○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。	○			調度も家庭的なものが取り入れられ、ひな祭りや節句等、季節ごとに手作りの装飾をしたりして工夫をされていた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、入居者が一人になったり気のあった入居者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			入居者の方々は、ソファで食後にテレビを観られたり、気の合う仲間とテーブルで談笑する等、思いおもいに過ごされていた。	
8	9	○入居者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			馴染みの生活用品が持ち込まれ、本人の希望に合わせた居室の環境が作られていた。	
家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			4	0	0		
		2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり					
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 入居者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。(すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等)	○			居室も共用空間も、車椅子でスムーズに移動できる広さがあり、トイレ・浴室・廊下の手すり設置、床暖房等の配慮がなされていた。	
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、入居者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさず、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。(トイレや部屋の目印等)	○			自室を間違えないよう、目印の名札を下げて工夫されていて、自室やトイレが分からない方はおられなかった。	
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 入居者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。(テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等)	○			職員は穏やかな声かけをされていて、カーテンによる日差し調節やテレビの音量にも気を配られていた。	
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のだよみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			室内の温度は一定に保たれ、空気のだよみもなく、超音波加湿器による乾燥防止等適切な対応がなされていた。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			共用空間の目に付くところに、大きな手作りの日めくりカレンダーが置かれ、各居室にも手作りのカレンダーが掛けられていた。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 入居者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。(ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等)	○			手作りの50音パズルやゲーム、歌詞カード等が用意され、活用されていた。また、系列施設の合同行事委員会で、アイデアを交換し合う等の取り組みもされていた。	
心身の状態にあわせた生活空間づくり 6項目中 計			6	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、入居者主体の目標を立て、入居者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			アセスメントの他、入居者それぞれ、毎日の生活を記録したものを反映させて、具体的な介護計画をたてられていた。	
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			毎月1回の担当者会議で、気づきや変化の共有を行ない、介護計画の検討がなされていた。	
17	22	○介護計画への入居者・家族の意見の反映 介護計画を、入居者や家族とも相談しながら作成している。	○			家族の希望を聞きながら介護計画を作成し、訪問時などにも説明や確認がなされていた。	
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っており、変化があれば随時の見直しが行なわれていた。	
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、入居者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			毎日の個別介護記録が作成されており、3色の色分けで分かり易い記載が行なわれていた。	
20	25	○確実な申し送り・情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に言い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			朝夕の口頭での申し送りがされていて、ノートではサインをすることで確認がとられていた。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に(緊急案件がある場合にはその都度)会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			1ヶ月に1回の担当者会議を設け、課題の検討や合意形成に取り組まれていた。	
ケアマネジメント 7項目中 計			7	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○入居者一人ひとりの尊重 職員は、常に入居者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(入居者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)	○			入居者一人ひとりの生活習慣を尊重し、帰宅願望があらわれる方にも、言葉遣い等適切な対応がなされていた。	
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で見守っている。	○			ホームの穏やかで落ち着いた雰囲気を壊さぬよう、急いだり大きな音をたてない配慮がなされていた。	
24	30	○入居者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 入居者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			家族からの聞き取り、日々の生活から引き出された気付きを記録し、職員が理解し、ケアに活かす取り組みをされていた。	
25	32	○入居者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、入居者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。	○			起床や食事の時間等も本人の意思を大切にして、それぞれのペースで日常を過ごされるように支援されていた。	
26	33	○入居者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)	○			外出の希望等、職員から声かけをして聞くようにし、日中活動でも自分で選ぶ場面を作り、返事を聞かれていた。	
27	35	○一人で行えることへの配慮 自立支援を図るために、入居者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○			食事や排泄等、できることは自分でしてもらい、それ以外でも、一緒に手伝う等して、自信を失わないよう支援をされていた。	
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。	○			身体拘束について、職員は研修などを通じて理解されており、拘束のないケアが行われていた。	
29	38	○鍵をかけない工夫 入居者の自由な暮らしを支え、入居者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○			玄関は日中は自由に入出入りできるようになっており、ベランダなどの出口にはセンサーをつけて、鍵をかけない工夫をされていた。	
介護の基本の実行 8項目中 計			8	0	0		

項目番号 外部 自己	項 目		できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
		(2)日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、入居者一人ひとりが使い慣れたものになっている。	○			入居時には使い慣れた食器を持参していただき、共用の食器も家庭的なものが使われていた。	
31	44	○入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫 入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			一人ひとりに合わせた、御飯の軟らかさ、おかずの大きさ等の調理方法がとられ、透析の方への対応もされていた。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 入居者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおそ把握している。	○			栄養士によるバランスがとれた献立が提供され、毎日の摂取記録もつけられていた。	
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。		○		介助が必要な方もおられ、職員は同じテーブルでさりげないサポートを行いながら、楽しそうに会話を交え食事をされていたが、御弁当を持参しており、同じ食事を摂られていなかった。	入居者の方も御弁当に違和感を持たれておられないが、同じ食事を味わうことにより、職員の調理レベルの向上も期待できるので、今後の検討を望みたい。
		2) 排泄					
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			自立されている方にはさりげない見守りを行い、排泄パターンを把握して、その方に合わせたトイレへの誘導が行われていた。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導・介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。	○			排泄時の誘導は、他の人にわからないようにさりげなく声をかけをされていて、失禁の際も浴室内のトイレで、プライバシーに配慮した対応ができるようになっていた。	
		3) 入浴					
36	53	○入居者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 入居者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			二つのユニットで別々の入浴日を設定しており、本人の希望に添っていつでも入浴できるようになっていた。	
		4) 整容					
37	56	○理美容院の利用支援 入居者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			かかりつけの美容院を利用されたり、訪問美容の支援が行なわれ、パーマをホームでかけられる方もおられた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○			着衣などの好みも本人の希望を尊重し、整容の乱れや汚れのないように、さりげない支援が行なわれていた。	
		5) 睡眠・休息					
39	60	○安眠の支援 入居者一人ひとりの睡眠の 패턴を把握し、夜眠れない入居者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			ホームの周辺を散歩するなどして、安眠につながるように活動をされており、眠れない場合にもゆっくりと話に付き合い、不安の解消を図る等の支援が行なわれていた。	
日常生活行為の支援 10項目中 計			9	1	0		
		(3) 生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 入居者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、入居者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			大きな金額はホームで預かり、入居者は力量に応じて小銭を持たれていて、職員が買い物等に同行されていた。	
		(4) ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割・楽しみごとの支援 ホーム内で入居者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。(テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等)	○			入居者には洗濯物たたみ、食後の片付け、カレンダーの日めくり、他の入居者の話し相手等の役割があり、パズルやゲームを楽しんだりして過ごされていた。	
生活支援 2項目中 計			2	0	0		
		(5) 医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。(医師、歯科医師、保健師、看護師等)	○			関連病院といつでも相談できる体制があり、敷地内の施設の看護師とも日常の相談をされていた。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			入院時にはたびたび見舞いに行き、退院の見極め等、病院と相談しながら支援が行なわれていた。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			定期的な通院時に健康診断を実施されていた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		(6)心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等)を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			広い敷地内の散歩や、嚥下機能維持のための歌体操等を取り入れ、機能の維持に努められていた。	
		(7)入居者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、入居者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			トラブル時には、本人のプライドを損ねないようにスタッフが仲介し、入居者にも、気付いたことを早めにもっともらうことをお願いして、未然に防ぐようにされていた。	
		(8)健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 入居者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○			歯科医の研修を受け、毎日夕食時に重点的な歯磨きや義歯の手入れの支援が行なわれていた。	
48	83	○服薬の支援 職員は、入居者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、入居者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			1回毎に日付を入れて管理し、その都度本人に手渡しして服薬を確認されていた。	
49	85	○緊急時の手当 入居者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。(けが、骨折、発作、のど詰まり等)	○			系列病院での年1回の応急処置講習に参加され、敷地内の施設からも緊急時には対応してもらえるようになっていた。	
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等)	○			マニュアルを作り、予防に努められていた。また、畳やカーペットを使用せず、床の近くに菌が増えないように徹底した対策がとられていた。	
医療・健康支援 9項目中 計			9	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 入居者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。(買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等)	○			近くの直売所や散歩に行く他、週1回の同系列のホームとの交流、敷地内の施設での行事参加等の支援が行なわれていた。	
地域生活 1項目中 計			1	0	0		
		4. 入居者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。(来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○			家族が自由に訪問できる施設の造りや雰囲気があり、たびたびの訪問があっていた。	
家族との交流支援 1項目中 計			1	0	0		
		IV 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			法人代表者と管理者は、ケアの向上のために協力して取り組まれておられ、系列のホームの管理者とも相談し合う関係がつくられていた。	
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、入居者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			入居者の受け入れ時には、事前に来所していただき、職員採用時にも実習してもらうことによって、職員の意見が反映されるようになっていた。	
		2. 職員の確保・育成					
55	101	○入居者の状態に応じた職員の確保 入居者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			入居者の生活の状況に即したローテーションが組まれており、両ユニットを行き来して協力し合える体制がつくられていた。	
56	103	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			内外の研修受講のみでなく、敷地内の施設で行なわれているヘルパー2級講習が受講できるようになっていた。	
57	105	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。(外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等)	○			定期的な食事会の他、イベントの出し物にチームを作って参加したりして、職員同士の交流が図られていた。	

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
58	107	○入居者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。(介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、入居者・家族の希望等)	○			関連機関からの情報収集をし、家庭訪問をしたり、事前にお茶の時間に来てもらうなどして検討がなされていた。	
59	109	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、入居者や家族に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			退去された方はおられないが、求めがあれば支援できる体制を準備されていた。	
		4. 衛生・安全管理					
60	112	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。(食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等)	○			食器や調理器具、トイレや浴室も清潔に保たれ、衛生管理が行き届いていた。	
61	114	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			夜間は台所を施錠し、危険な物品や洗剤なども手の届かないところに収納されていた。	
62	116	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。(再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等)	○			事故・ヒヤリハット報告書の様式を整備し、注意喚起を必要とする事項については話し合いを行ない、周知徹底を図られていた。	
内部の運営体制 10項目中 計			10	0	0		
		5. 情報の開示・提供					
63	118	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			調査の目的と意義についてよく理解され、訪問時には積極的に応じていただいた。	
		6. 相談・苦情への対応					
64	119	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、入居者及び家族にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			玄関に置かれたファイルに苦情相談窓口の掲載があり、入居時にも本人や家族への説明がされていた。	
情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号		項 目	できて いる	要 改善	評 価 不 能	判断した理由や根拠	改善すべき点等の特記事項
外部	自己						
		7. ホームと家族との交流					
65	122	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			家族の訪問時に声かけをして、要望を聞きだす努力をされていた。また、運営推進会議に家族の代表に入ってもらい、意見を出してもらっていた。	
66	123	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、入居者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）	○			ホーム便りを作成し、写真で暮らしぶりの様子が伝わるようにされていた。	
67	126	○入居者の金銭管理 入居者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			持てる能力に応じた金銭の支援をされ、家族に領収書を渡して預かり金の明細を報告されていた。	
ホームと家族との交流 3項目中 計			3	0	0		
		8. ホームと地域との交流					
68	127	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			運営推進会議を活用して、情報交換をするなど、市町村と連携がとれる体制ができていた。	
69	130	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに來たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			近隣の保育園や施設などとの定期的な交流の他、入居者の友人がホームを訪問できるような支援がなされていた。	
70	132	○周辺施設等の理解・協力への働きかけ 入居者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。（商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等）	○			防火訓練等を通して警察や消防との連携体制を作り、近隣施設の協力が得られるように働きかけをされていた。	
71	133	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、入居者のケアに配慮しつつ地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受入れ等）	○			演奏・演劇ステージ等のボランティア受け入れをされており、研修受け入れについても、できる体制があった。	
ホームと地域との交流 4項目中 計			4	0	0		

※ (1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常職員を含む。